



第24回全国障害者スポーツ大会  
埼玉県代表  
おおわだ はるか    さいとう あやみ  
大和田明花さん 齋藤彩美さん

## 全国大会で輝く 2人の挑戦

埼玉県代表として出場した『第24回全国障害者スポーツ大会』で、大和田明花さんがボッチャで優勝、齋藤彩美さんがスラロームで準優勝、ジャベリックスローで第3位の輝かしい成績を収めました。

今大会初出場の大和田さんは、ボッチャペア戦のキャプテンを務め、『絶対に金メダルを取る。』というプレッシャーの中で戦い、見事優勝。「一緒に練習した仲間や、県代表の選手たちに本当に感謝しています。」と語ります。ボッチャは重い障害のある人でもできるインクルーシブスポーツで、「ボッチャに出会い、さまざまな体験ができて感謝しています。他の人にもボッチャの可能性を知ってもらいたいです。」と目を輝かせます。

齋藤さんが出場したスラロームは、赤と白のピンの間を車いすで前進・後進させて走り抜け、タイムを競う競技です。大雨でコースが濡れた厳しい条件の中で必死に走り、「隣のレーンの選手を追い越す勢いで走りました。」と振り返ります。ピンを倒すと5秒加算されるため、ギリギリを攻める練習を重ねました。「スラロームは大変だけど面白いです。全国大会に出て、仲間や関係者のかたとのふれあいが楽しいです。」と語ります。また、専用の用具を投げて距離を競うジャベリックスローでは、「今よりも1メートル伸ばしたいです。」と次の目標を力強く語ります。

大和田さんは上位大会への出場を目指し、齋藤さんも安定してタイムや距離を出せる選手を目標に、日々の練習に力を注いでいます。全国の舞台で磨いた経験と情熱を胸に、障害者スポーツをけん引する存在として、今後の2人の活躍を期待しています。



▲ランプ(投球補助具)を使って投球する大和田さん



▲ピンが置かれたコースを走る齋藤さん

## ふっかちゃんの日常から 深谷が見えてくる ふっか散歩



### 150 祭魚洞 渋沢敬三先生像

今回は、旧渋沢邸『中の家』正門南側に設置された栄一さんの孫の敬三さん(雅号:祭魚洞)の銅像を見に来たよ。栄一さんの銅像と一緒に青森県からやってきて、昨年11月11日にお披露目されたんだって。本を持っている姿は、民俗学を研究していた敬三さんらしいね。



◀青森県にあった時の敬三さんの銅像の様子だよ。



▲ふっかちゃんがかどこにいるか、みんな分かるかな。それくらいとっても大きな銅像で、台座も含めて約5メートルもの大きさなんだよ！見に来ていたお客さんもびっくりしていたよ。



▲台座の側面には、解説板があったよ。銅像の由来や敬三さんのことなどが詳しく書いてあったよ。敬三さんは栄一さんと一緒に『中の家』に何回も訪れていたんだって。

### ふっかちゃんのつ・ぶ・や・き

22日(日)に『ふかやシティーハーフマラソン』が開催されるよ！ランナーのみんなを沿道で応援しよう！ Y(o0w0o)Y



ふっかちゃん  
のつ・ぶ・や・き  
深谷市

## 『農業』で

# 深谷を元気に！



深谷市では、『儲かる農業都市ふかや』の実現を目指し、『農業』を核とした産業のブランディングを進めています。  
問い合わせ/産業ブランド推進室 ☎577 - 3819  
産業ブランド推進室 [検索](#)

## ”推し”アグリテック企業コンテストを開催しました！

深谷市では、市内に農業課題を解決する技術(アグリテック)を持つ企業を集め、農業版シリコンバレーとして先端農業の中心地となることを目指し、『DÉEP VALLEY』と名付けて、『儲かる農業都市』の実現に向けたさまざまな取り組みを実施しています。

その取り組みの1つとして、昨年11月8日、9日に開催された『第20回深谷市産業祭』で、農業生産者が『この製品(サービス)が画期的！』と思うアグリテック企業を選出し、来場者の皆さんに投票してもらう『”推し”アグリテック企業コンテスト』を開催しました。

投票の結果、1位から3位に輝いた企業を紹介します。

### 第1位 (株)FieldWorks

小型草刈りロボット・ウネカル  
小型除草防除ロボット・ウネマキ

ウネカルは畝間の草を刈り取り、ウネマキは畝間から除草剤を散布する、除草作業を省力化する小型農業ロボットです。



### 第2位 (株)land link

野菜あらいのお水ベジセーフ

吹きかけるだけで水では落としづらい食材の表面の汚れを優しく浮かし落とす『還元型アルカリバブル電解水』です。



### 第3位 (株)TOMUSHI

外国産カブトムシ飼育コンサルティング  
カブクワすごいぞ！イベントフランチャイズ

カブトムシによる農業残渣の処理や、カブトムシのふんを有機肥料として活用する取り組みを行っています。



## 心の広場



### いじめやけんかのないクラス

#### 深谷西小学校3年 池田 遼乃 さん

わたしは、三年三組をいじめやけんかのないクラスにするために考えが七つあります。

一つ目は、友だちに親切な行動をすることです。友だちにやさしくするとあい手も自分もよい気持ちになりいじめやけんかがなくなると思うからです。

二つ目は、さべつをしないことです。この子ならばいい、この子はだめではなくみんなとなかよくしていきたいです。できないことがあればさきょう力してみんなにやさしくしていきたいです。

三つ目は、わる口、わるい言葉を言わないことです。わる口を言うと友だちがいやな気持ちになります。あい手

の気持ちを考えてわる口は言わないようにします。

四つ目は、なかなかおりをすることです。もしも友だちとけんかをしてしまった時になかなかおりしないとずっといやな思いをすることになります。なかなかおりをしていやな思いをなくせばあい手も自分もいい気持ちになります。

五つ目は、そうだんをすることです。何かこまってしまう自分でかいつつできない時は、先生や友だちにそうだんします。

六つ目は、あい手ときょう力することです。あい手がこまっていたら声をかけたり、手つだってあげると、あい手もうれしいし自分もいい気持ちになります。

七つ目は、友だち一人一人を大切にすることです。うそやわる口、むしなどをされるといやな気持ちになります。ほかになかまはずれなどのいやなこともあります。一人でも、少しでも、いやな気持ちやつらく、かなしい気持ちにならないように、こうしたことはなくしていきたいです。

わたしは、この七つの考えを大切に、いじめやけんかのない、やさしいクラスをつくっていきたいです。

※学校・学年は受賞当時のものです